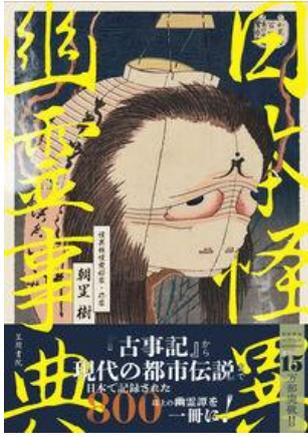


どんな?  
こんな!

レファレンス

# R 資料

なかなか手に取りにくい“調べもの”のための  
資料＝通称“R(レファレンス)資料”  
ここではレファレンスのスペシャリストが  
とっておきの資料を皆様にご紹介します



## この世の、その後

『日本怪異幽霊事典』

朝里 樹／著 笠間書院

2024 R388.1

「人は死後どうなるのか」それは幽霊や怪異現象などの事例として創作され、記録されてきました。それらを集めたこの事典は伝説、文学、芸能、都市伝説など、出典資料の成立時代ごとに分けられて

いるのが特徴です。事例の代表格「幽霊」、言葉として見える最古の例は天平 19 年 (747)、当時は目に見えない死者をさした言葉が、室町時代、世阿弥の能の中に使われたことにより、目に見える人間の姿をした死者に対する言葉として変化していったそうです。登場する「幽霊」が古代は高級貴族、中世は武将、近世は町人、現代はトイレの花子さんなどへ変化、化け方、呪い方、登場の仕方などの移り変わりがみえるのも時代別ならではの。日本人の死生観の変化も垣間見ることのできる一冊となっています。

シリーズ  
郷土資料

## 発見！私たちの郷土

身近な伝説・民話

自分の住んでいる地域の伝説や民話をご存じでしょうか。

相模原で有名な巨人伝説の「でいらぼっち」は鹿沼や淵野辺の菖蒲沼、南区大沼、南区大野台などの沼地やくぼ地の形成伝承として語り継がれています。

また、鹿沼公園の池は「でいらぼっち伝説伝承地」として市登録史跡となっています。

こちらの本は神奈川県のあるさまざまな地域の民話と伝説がまとめられています。

相模原市からは「でいたらぼうとじんだら沼」をはじめ、「相模川のぼんばあ石」、「お銀とこ銀の笛」、「鳥のみじい」、「蛇婿入」などのお話が収録されています。一話一話が短いので読みやすく、切り絵の挿絵が目を引く一冊です。

郷土資料コーナーの分類番号 K1-38 の棚には相模原だけの民話伝説集もあります。ぜひ、ご覧ください。

萩坂昇著  
神奈川県  
の民話と伝説

『神奈川県民話と伝説 上下巻』

萩坂 昇／著 有峰書店新社

1993 K0-38